



【活動エリア】

氷見市速川地区全体

【受入先】

速川地区まちづくり協議会

【受入先の説明】

速川地区は、富山県氷見市の西部地区に位置する典型的な中山間地域です。田舎暮らしをするには「ほどよい田舎」であり、地区内での様々な活動も行われています。令和5年度からは、農林水産省の「農村型地域運営組織（農村RMO）」のモデル地域に選定されたところであり、補助金を活用しながら、農業を核とした経済活動や地域コミュニティの維持に向けた様々な実証実験を行い、持続可能な地域を目指した活動を行っています。

【受入先の現状と課題】

「農村RMO」の取組みを進める中で、マルシェ開催、特産物の充実（さつまいも、メロンなど）、山村留学、林産材活用など今後も地域活性化のために継続していきたいプロジェクトの形が見えてきました。

しかし、令和7年度の補助終了後も、各事業を充実・発展させていくためには、新たな知見を地域に取り込んでくれ、地域の中でプロジェクトを進めようとしてくれる方が必要だと感じています。プロジェクトを通じて、地域での稼げる仕組みを作り上げることが、持続可能な里山の暮らしを守ることに繋がり、引き続きこの速川地区が存続していくための手段だと考えています。

また、地域内には、関係人口の受け入れや移住希望者への対応、地域内コミュニティの充実のための移住交流センター（ゲストハウスソライロ）があります。現在地区内の住人のうち半数以上が高齢者で、30～40代の若い世代の地区の行事参加もコロナ禍以降激減しており、このゲストハウスを生かした地区内でのコミュニティの再構築や関係人口の拡大も必要と考えています。



廃校を活用したマルシェ開催時の様子



山村留学で草刈り機の説明を受ける大学生たち

【主な任務】

- ・マルシェ開催、特産物の充実（さつまいもなど）、山村留学、林産材活用などの各事業の改善、新企画検討
- ・移住交流センターの管理・運営を通じた、地区内でのコミュニティの再構築及び関係人口の受け入れや移住希望者への対応

【3年間の活動イメージ】

1年目

- ・RMOで取り組んできた事業の全体像把握と関係者ヒアリング
- ・各事業の継続に向けたポイント分析、関係者との問題点共有
- ・コミュニティ施設の運営の基礎を学習（各種資格の取得）

2年目

- ・各事業の収益性アップに向けた改善策実行
- ・コミュニティ施設の管理運営、イベント企画
- ・関係人口や移住者受入対策

3年目

- ・各事業の拡大や新規事業の立ち上げによる収益性アップ策実行
- ・コミュニティ施設の管理運営、イベント企画

【3年後までに達成してほしい目標】

- ・各事業の継続に成功し、地域が活性化していること（地域での稼げる仕組みを作り上げられていること）。
- ・移住交流センターがコミュニティ施設として、今よりも活用されていること。

【任期終了後のイメージ】

- ・移住交流センターの利用者からの収益や、地域における各事業からの収入を組み合わせたマルチワーカー（複業）として定住してもらいたい。

※移住交流センターの現管理人は協力隊OBですが、新しい協力隊の方に運営を引き継ぐ意向があります。

- ・現在取り組んでいる事業のほかに、隊員の方がチャレンジしたい新規事業が見つければ、応援したい。

【1週間の活動イメージ（初年度）】

月：コミュニティ施設の運営

火：各事業の関係者ヒアリング、事業手伝い

水：休み

木：休み

金：各事業の改善点検討、改善案を説明するための資料作り

土：コミュニティ施設の運営

日：コミュニティ施設の運営、イベント出店等

【1日の流れ（例）】

- 8:15～10:30 コミュニティ施設のランチの仕込み
- 10:30～14:00 コミュニティ施設運営（カフェ部門）
- 14:00～15:00 休憩
- 15:00～16:00 事業関係者へのヒアリング、現地確認
- 16:00～17:00 先行事例調査

※宿泊の予約がある場合は、チェックイン受付、館内清掃、夕食準備、会計処理等事務作業の業務が午後に発生します。

【求める人物像】

能力・性格

- ・人当たりが良い方
- ・複数業務のタスク管理ができる方
- ・SNS 運用（宣伝、PR）に苦手意識がない方

【経験・資格】

- ・食品衛生責任者、防火管理責任者
（未経験可、任期中に取得できます。）

【サポート体制】

- ・各種 RMO 事業については、速川地区まちづくり協議会のメンバーが中心となって受入れる予定です。
- ・移住交流センターについては、現在管理運営を担い地域に定住している地域おこし協力隊 OB が管理業務を指導する予定です。（引継意向あり）
- ・住民の紹介についても、同様に協力隊 OB と協議会メンバーで対応いたします。

【押しポイント】

- ・地域課題に取り組んできた地域であるため、地域住民の皆さんの地域活性化に向けた意欲が高い地区になっています。
- ・協力隊 OB が定住しており、地域住民の協力隊制度への理解も高いため、フォロー体制も充実しています。

【一緒に働く人からのメッセージ】

（速川地区まちづくり協議会 大館会長）

速川地区（380世帯・人口約950人）は、豊かな自然に囲まれながらもアクセスのよい山間部の少ない「ほどよい田舎」です。地域では、獅子舞や季節ごとの伝統行事が今も大切に受け継がれ、NPO や各種団体が連携して「持続可能な地域づくり」に取り組んでいますが、新しい視点や

柔軟な発想で助けただけの仲間を必要としています。

外からのあなたの「目」と「行動」が、速川に新しい風を吹き込んでくれることを期待しています。都会から離れ、自然と人の温もりに囲まれて、自分らしく地域に関わる暮らしをしてみませんか！



まちづくり協議会のスタッフ（下段左端 大館会長）

（速川地区在住地域おこし協力隊 OB 澤田さん）

私が速川に来て、早 10 年が経ちました。移住や定住というと、ハードルが高いものだと思いますが、この地域おこし協力隊は、3 年間でその地域との関係性や仕事づくりにおいて、非常に有効に活用できる制度だと考えます。

今この中山間地では農村 RMO という事業を通じて大きな変化が起ころうとしています。地域の人々の変化、地域イベントの変化、そして何より地域コミュニケーションの再構築が行われつつあります。この流れを止めないために、新たな力やアイデアと一緒に考えてくれる仲間を募集いたします。

ぜひこの「ほどよい田舎」の速川に足を運び、人に触れ、空気に触れて、地域の感動をともに分かち合いましょう。



林産材活用で移動式サウナを試すスタッフ（中央 地域おこし協力隊 OB 澤田さん）

【その他参考 URL、資料】

- ・「ほどよい田舎 はやかわの暮らし」

https://drive.google.com/file/d/1SSgrMqrBRG0cTbL_w3VKvj3NPWbGGjrW/view?usp=drive_link

- ・速川地区まちづくり協議会 HP

<https://himi-hayakawa.com/>